

## 茨城新聞社長賞

# 「Sさんの日記帳」

主婦 四十三歳  
吉田 陽子  
日立市



「福祉ボランティア募集」そんな看板を見つけたのは、三年前の秋でした。勤めていたレストランを辞めて、ぶらぶらしていた私。やってみようかと、心高まりました。

「話し相手をして下さい。」という、銀砂台助川サテライトの管理責任者の言葉と共に、デイサービスの現場に入りました。でも、何も話すことがなく、時間が経つのが遅く感じられました。

ある日、Sさんという女性のご老人と会いました。Sさんは日記帳にいつも何か書いていました。ちょっととした興味で「読んでもいいですか?」と私が聞くと、彼女はにっこりして見せてくれました。そして私はショックを受けました。「早く家に帰りたいです。」毎日の日記にその言葉がくり返し書かれています。Sさんにとつて、デイサービスは苦痛なんだとわかって、何とかしたい、でも何も出来ないという無力感に襲われました。

Sさんが唯一楽しそうに、歯の無い口もとをほころばせて笑う時がありました。それは、歌を歌う時でした。「草津よいとこ二度はおいで〜」彼女の声は伸びやかで、ちょっと恥ずかしげな顔も、自信にあふれて見えました。これは!と思った私は管理責任者に相談しました。「キーボードで歌を歌ってははどうでしょう?」「キーボード弾けるんですか?」「今から練習します!」

私は私物の安いキーボードをデイサービスに持ち込みました。ヤマハの音楽教室に通いながら、唱歌や流行歌の演奏をしました。そしてある日、ふと気づきました。Sさんがあの日記帳を持つてこなくなつたのです。「Sさん、最近は何日日記つけないんですか?」「うん、もうつけないよ。」歯のない口もとをかわいらしく開き、目を細めたSさんは最高の笑顔を見せてくれました。

### ●受賞コメント

しがないボランティアですが、皆さんが元気になつてくれるように頑張ってきました。元気をもらったのは私の方だったと、今、感謝でいっぱいです。

